

化学品事業

収益の安定化に向けて、さらなる改革を進めます。

改革のスピードアップ

2004年に新たに改組された化学品事業本部が発足してすでに1年が経ちました。当事業本部はこの1年そのミッションである安定収益事業への変身を目指し、全力をあげて改革に取り組んできました。しかし、化学品事業本部の対象とする市場は相変わらず縮小傾向にあり、苦戦が続きました。

このような状況下、アグロ事業は売上こそ前年実績を上回りましたが利益は悪化しました。色材事業は国内染料の減少が続き、売上が減少しましたがコストダウン、固定費削減などの収益改善策が奏効し、利益は改善しました。火薬事業も色材事業同様売上は減少しましたが、1昨年から取り組んでいるコストダウン効果が顕著に現れ、利益の急速な回復をみました。結果としまして事業本部全体では売上は微減、利益は微増となりました。

市場縮小は依然として続いており楽観できませんが色材、火薬の両事業については安定収益事業という目標に向け、一定の前進はできたのではないかと

考えています。しかし、アグロ事業は抜本的な改革が必要であり、改革はその緒についたばかりといえます。今後は、改革のスピードを上げ、安定収益事業とすべく努力していきます。

アグロ事業の再生

減反政策、減農薬などのアゲンストの風の中、2005年5月期、アグロ事業は不振を極めました。有力な新製品もなく、国内販売が減少したことがその主因です。色材や火薬事業は利益が好転し始めてきた中であって、アグロ事業の早急な建て直しを図ることは当事業本部の急務となっています。このため、アグロ事業再生シナリオを作成し、その実行を開始しました。①足腰の弱い国内営業体制を強化すること、②研究開発のテーマおよび組織を見直し、新製品を計画的かつスピーディーに上市できる体制を築くこと、③組織の無駄を排除し、スリムで効率的な管理体制を築くこと、以上がこのシナリオの骨子です。

2006年5月期は受託品の売上計上方法を変更するため、売上は実質的に横ばいであっても見かけ上は大幅に減少することとなります。しかし、利益については必ず増益を達成していきま

す。再生に向けた改革は痛みを伴いますが粛々と実行し、業績の反転上昇を目指していきます。



化学品事業本部長
福島良昭
取締役／常務執行役員

■ 色材事業

国内染料市場は今後も減少が続くと予想していますが、幸い中国子会社の販売がようやく増加し始めました。また、紙パルプ用の色材については、価格は下落傾向ですが使用量は増加しています。以上のことから、減少が続いていた色材の売上は2006年5月期には横ばいになると見込んでいます。引き続き差別化商品の上市、コストダウンの推進などによって利益率を増加させ、増益を図っていく考えです。また、長期間にわたり開発を続けている機能性薬剤については、実績を出せるようにしたいと考えています。

■ 火薬事業

2003年から続けてきたコストダウンの努力が実を結び、利益では急速な回復を見ました。しかし、公共事業の減少により産業用爆薬は、依然として売上減が続いています。こうした中で生き残っていくためには、当社の競争力はまだ不十分です。さらに着実に懸命な努力を続け、日本で最強の産業用爆薬メーカーとなることを目指していきます。

■ 将来展望

化学品事業本部のおかれている環境は、どの事業に関しても実に厳しいものがあります。しかし、当事業本部の営む事業は、私たちが生活する上で必須のものであり、消滅することはありえません。当社には、長年にわたり蓄積してきた多くの技術やノウハウがあります。こうした強みをより一層活用し、使いやすく、便利で安全な競争力のある製品へと既存製品を進化させるとともに、差別化された新製品の開発にも取り組んでいきます。事業内容を進化させることにより、規模は小さくともユニークな事業本部となることを目指します。

事業領域

■ アグロ事業

農薬などの製造・販売を行っています。

主要製品

- ダイアジノン
- マトリック
- サフロチン
- エピセクト
- シクロサル
- MCPB
- クロルピクリン
- ククメリス
- ラットデン
- シメトリン
- クロピクフロー



■ 色材事業

テキスタイル用繊維用染料、紙用染料などを製造・販売しています。

主要製品

- カヤロンポリエステル
- カヤクリルED
- カヤセロンリアクト
- カヤラス
- カヤシオン
- カヤフェクト
- カヤホールリキッド
- カヤセット



■ 火薬事業

爆薬、黒色火薬、火工品などの製造・販売を行っています。

主要製品

- ダイナマイト
- 含水爆薬
- ANFO爆薬
- 黒色火薬
- 電気雷管



トピックス

繊維用染料、中国で拡販

中国の連結子会社である無錫先進化学工業有限公司では、水溶性染料、分散染料などの繊維用染料の製造・販売を行っています。現在は現地生産品の約4分の3を日本に向けて輸出していますが、日本の染料市場は縮小傾向にあるため販売を拡大するのは難しく、当社は中国での拡販により、事業を拡大していく計画です。2007年5月期には、生産品の4分の3を現地で販売することを目指します。

拡販のための販売体制を強化する目的で、上海市にある無錫先進化学工業有限公司の支店における営業要員を順次増やしていく予定です。生産能力に関しては、現在工場全体として余力はありますが、染料の品種によって設備を増強、また、将来の販売計画見合いで数年以内に新工場棟を建設する計画です。

含水爆薬の粒状化に成功

2005年2月当社は、トンネル発破工事などに使われる含水爆薬を粒状化した新製品「ランデックス」を世界に先駆けて開発、発売しました。現在、国内外で特許を出願中です。

水分を含む含水爆薬はエマルジョン爆薬とも呼ばれ、有害ガスの発生が少ないなどの利点からトンネル発破工事に使われています。しかし、従来は、その溶液のため耐水紙やフィルムで筒状に密封しなければなりません。そのため、爆破作業の際は手作業で装てんしなければならず、危険性が高いうえ時間もかかっていました。「ランデックス」は粒径が約4ミリメートルのペレット形態であり、装てん機械を使うことができ、安全性と効率性を高めることができます。